

たかやま共創ミーティング第1弾 2日目まとめ

～これからの公園の役割と将来のあり方を考える～

日時：令和6年5月9日 19時00分～

場所：市役所 3階 行政委員会室

【ミーティング内容】

☆ 各市民メンバーによる提案

1. ユニバーサルデザインを踏まえた公園の整備
2. インクルーシブ（ユニバーサル）公園の整備
3. 変化する余地のある公園、ハードからソフトの充実した公園づくり
4. 市民誰もが居場所がある公園
5. 多面的な機能を持った公園

☆ 提案についてのまとめ

1. 公園のハード面の提案

- ①ユニバーサルデザインやインクルーシブを意識した公園施設の整備
- ②車椅子などでもゆったりと利用できる広々とした空間をもつ室内広場の整備
- ③すべての子どもが楽しめる工夫のある施設（プラネタリウム、感覚で楽しめる美術館、車椅子の入れるおしゃれなカフェなど）
- ④価値観やニーズの変化に対応できる施設の採用
- ⑤イベントをしやすくするための施設の整備（イベントに使用できる電源設備やスペースなど）
- ⑥遊具を置かない整備（トンネルや地形の起伏のみなど）により維持管理を低減するなど新しい空間としての公園の整備
- ⑦避難場所、運動場、自然公園としての環境保護や生物多様性の観点をいれる
- ⑧少しの工夫によって公園ごとに特色をもたせる（アート、農業、習い事）
- ⑨多目的な機能をもった公園（シンボリックな総合公園）の整備
- ⑩現状施設をエリアで機能させるための連絡施設（ランニングコースなど）の整備

2. 公園施設におけるソフト面の提案

- ①収益をあげられる公園づくりをすすめ、継続的で長いスパンでの運用を図る
- ②山林（地形を利用）や農地（どろんこ遊び）など遊休地などを利用した高山らしい公園づくりの推進
- ③車椅子の取組みなど、市外地域のツアーなどのイベント企画
- ④目的（高齢、不登校、乳幼児、乳幼児の親子など）に応じた場づくり空間となる公園の利活用
- ⑤施設利用者に寄り添ってくれる人材の育成としくみづくり（介助、施設利用の利便性を高めるコーディネーターの育成）
- ⑥利用する地域のアイディアによる市民で作る愛着のある公園づくり
- ⑦ゲームとのコラボによる活性化

3. 提案後の意見交換

- ①室内施設をつくるのであれば、広い空間のスペース（100名以上、車いす15台以上が集まれるスペース）があれば、赤ちゃんからお年寄りまで楽しめる、子どもが想像で遊べる場所ができる。
- ②屋内や天井のある施設は必要、天井が高い施設は利活用の幅が広がる。
- ③屋外の公園はオープンな施設なため入りやすいが、屋内施設は入るのに勇気がいる。外と中が繋がった空間を持った施設が望まれる。
- ④恒久的な建物を整備しても将来の変化に耐えられないかもしれない。仮設建物でも良質なものがあるので価格を抑えるために考慮した方がよい。
- ⑤それぞれのプロに任せるべき。公園づくりも同じ。選択の余地を増やして、ベースを作ってから、事業を進めることが重要。既存施設の使い勝手を変えるところから。
- ⑥まちをつくるという視点から公園づくり。
- ⑦小さな児童館の配置など子どもが歩いていける場所に遊び場がほしい。
- ⑧公民館などの公共施設の解放、神社や寺など既存ストックの利活